

山形県寒河江・西村山地方の方言

茂はら山人 布施一男

はじめに

私は寒河江市の出身で地元の高校を卒業後上京し、爾来ほとんど首都圏で生活しています。現在は千葉県に在住し、県立高校の国語科の教員をしています。

あるとき、教室で試験の答案を返却したあとに生徒が職員室に来て文句を言います。「炭櫃」「火桶」の漢字に読み仮名を付ける答案が×になっているが、でも、授業で教わったとおりに書いたというのです。

「先生は確かにすびづ・ひおげといいました。ホラちゃんとノートに書いてありますよ」

「おしかったねえ。すびづ・ひおげが正解だよ。はははキミなまってるね」

「そうでしょ。やっぱりすびづ・ひおげでいいんでしょ」

「???ちがう、ちがう! すびツツ・ひおケツ」

「ほらね」

「……………」

ということで、結局 になってしまいました。残念ながらその生徒は大学をすべって浪人してしまいました。私に三年間国語を教わったせいです。

また、小学二年生の娘が、

「パパ、あんだがした ってなあに？」

「そんなこといったけ」

「うん。電話でおばあちゃんに言ってたよ」

自分ではきれいな標準語しょうずんごをはなしているつもりなのに「やっぱすんまくなえ」証拠です。

そして、今回お盆に帰省したら、母が、

「あのれあ～なんだけ。あのすけべえしゃ」

「??？」

「テレビさででくんなよ」

「ああ、ケーシー高峰があ」

「んだ。はえすがよ、やまがだべんあづべでんだど」

ということで、小稿をしたためお送りいたします。

ふるさとを離れてかれこれ四半世紀にもなりますが、幼い日々覚えた言葉は以外と忘れないものです。やはり寒河江生まれの妻も同様に、ひとつのことばを思い出すたびにあははあははと笑いながら語彙収集に協力してくれました。それは、今は亡きずんつあばんちやたちと日常の会話に用いた言葉であり、なつかしいふるさとの記憶を彷彿させるものばかりです。

これら一つひとつの方言には、学問的にも貴重な日本語の遺伝子が含まれています。たとえば、「そばえる」などは万葉集に用例のあるきわめて古い古語です。また魚屋さんを「えさばや」生鮭を「ゆお」というのも同様、奈良時代以前の古い文献にみられる貴重なことばであり、さしずめ国宝級の価値があるものばかりです。そしてさらに、往時には最上川や寒河江川に鮭の大群が遡上し、人々の生活をうるおしていた様子が想像されます。つまり、こうしたことから魚（いお）といえは鮭そのものを言うようになったのでしょう。 私たちの方言を、ズーズー弁だの何だのといって粗末にははいけません。ひとつ日本語の発生から成長や消滅の課程を研究するうえでの貴重な語学的な資料になるだけでなく、その土地の歴史や民俗、風土や文化もをすべて内包しているのです。

従って、ふるさとの特に若いみなさんには学校でも家庭でも、常日頃から山形弁をおおいに話して大切に守っていただきたいと思います。

どうぞ、放送の中でご活用いただければ幸いです。

* なお、小稿は未完の草稿ですので誤り等をご教正いただければ幸いです。

〔家族の人称〕

ずんつぁ（名） おじいさん。

ばんちゃ（名） おばあさん。

おっつぁ（名） おとうさん。

おっか（名） おかあさん。幼児語で「ああちゃ」

あんつぁ（名） おにいさん。幼児語で「あんちゃ」

あねさ（名） おねえさん。幼児語で「あねちゃ」

しゃで（名） 弟。

えもど（名） 妹。

ばっつ（名） 末の子。

おんつぁ（名） おじさん。次男坊。幼児語で「おんちゃ」

おばさ（名） おばさん。

しいえ（名） 「家」のこと。小文字の「い」と「え」を喉の奥で一気に言う。

おやぎまぎ（名） 親戚。

〔一般の人称〕

ずさま・ずんず（名） おじいさん。クソじじい（という語感もある）

ばさま・ばんば（名） おばあさん。クソばばあ（という語感もある）

あんにゃ・あんにゃこ（名） 青年。青二才（という語感もある）

あねさま（名） 若い女性。未熟な女性（現代語のギャルに等しい）

にさ・にさなやろ（名） このやろう。

おら・おれ（名） 私。

おらだ・おんだ・おれだ（名） 私たち。

おめ・おめだ（名） あなたたち。

〔子供〕

おぼこ（名） 乳児。

おぼこなす（名） 妊産婦。 出産。

つつのみば（名） 乳歯。

ほぎる（動） 生え初める。 芽吹く。

こんもり（名） 子守。

やろ・やろこ（名） 子供のこと。「野郎」であるが必ずしも罵る意味に用いない。

「やろ、こっちや来え」などは愛称である。成人に対しては蔑称となる。

へな・へなこ（名） 女児のこと。「雛」が語源。成人女性を言う場合には蔑称となる。

～べら（接尾） 複数を表す接尾語。「やろべら・へなべら」等。

でんび（名） おでこ。 おでこが突き出ている容貌。

このげ（名） 眉毛。

ふたぶ（名） 頬。

まなく（名） 目。古語の「まなこ」が語源。

まなくえしゃ（名） 眼科医。

ちゃっこえ（形） ちいさい。

めちゃこえ（形） ごくちいさい。

めんこえ・めんごえ（形） かわいらしい。

めんこ・めんご（名） おりこう。

おがる（動） 成長する。

じえん（名） お座り。

よんだれ（名） よだれ。

よんだれかけ（名） よだれかけ。

したげ（名） 唾。

あます（動） もどす。吐瀉する。

ぬだばぐる（動） 腹這いになる。

からまんざえ（名） でんぐり。

こんもり（名） 子守。

すめす（名） おしめ・おむつ。

わにる（動） 人見知りする。古語の「わにる」が語源。

えねごまる（動） 小さく固まる。 自分のからに閉じこもる。

ちよどす・ちよどしえ（動） じっとする・じっとしている。

ほごる（動） 騒ぐ。子供が家の中をワイワイ走り回るようなときに言う。

ばよう（動） 奪う。

ばよつらえ（名） 奪い合い。

からがみ（名） ふすま。

しゃばぐ・ふちゃばぐ（動） 紙を破る。「ふ」は接頭語。

きかね（形） 親の注意に従わない子供。「利かぬ気」「きかぬき」のこと。

あらえ（形） 気が強い。

しえらえ（形） 気が強い。 けなげである。

てしよずらすえ（形） 子供があちこち手を出したり触れたり行儀が悪く、大人にとってうっとうしいさま。

ちよす（動） さわる。 いじくる。 余計な世話をやく。

かむ（動） かまう。 ちょっかいを出す。「噛む」ではない。

かむな（動） かまうな。 ちょっかいを出すな。

かくらがえす（動） 激しく転倒させる。

もっかえす（動） 転倒させる。 ひっくりかえす。

ぶずぐす・ぶっぐす・ぶじゅぐす（動） こわす。

「ちよすな、もっかえすズ。てしよずらすえ、かくらがえしてぶじゅぐすナ」

かちゃばぐ（動） ひっかく。

くつぐ・かぶづぐ（動） 噛む・かみつぐ。「くいつく・かみつぐ」が語源。

あばかがり（名） 強い相手に無茶苦茶になぐりかかること。「しよべむぐす」のような「よわかす」からでも「あばかがり」されると怖いものである。

ぬすぐれ（名） つまみ食い。盗み食い。

こざくらえ（名） 間食。 おやつ。

はらへた（動） おなかがすいた。

はらくつえ（形） 満腹だ。

はらえっだえ（形） おなかが痛い。
へんかえ（名） 口答え。 反抗。
おひゃらがす（動） はやしたてる。
えげすかね（形） 気に入くない。
かなづぎ（名） げんこつ。
えつころ（副） おもいきり。
ねっずぐ（副） こってりと。 ていねいに。
つろえ・つろぐ（形） つよい・つよく。
くらすける（動） 頭をたたく。
ほええほえて（副） 大声で。 キャーギャーと。
ごしえっばらやげる（動） 立腹する。
ごしゃぐ・ごしゃがれる（動） おこる・おこられる。
ぼう（動） 追いかける。
ぼだす（動） 追い出す。
えねくなる（動） 行方不明になる。
えだ（動） 見つけた。 いる。
あがすけ（名） 生意気。成人にも言う。
ぴりすけ（名） けちんぼう。成人にも言う。
よわかす（名） 弱虫。
なだ（名） 涙。
なだこぼす（動） 涙を流す。
むつこさえ（形） かわいそうだ。
ずほつぎ（名） うそつき。「ずほ」は嘘。
しょべむぐす（名） 小便を漏らす子供。 罵る言。
ばっこたれ（名） 大便を漏らす子供。 罵る言。
へったれ（名） 人前で平気でおならをする子供。 罵る言。
しゃみたがり（名） 頭髪に虱の寄生している子。 罵る言。
すなこえ（形） 虚弱である。 弱々しい。 柔らかい。
がおる（動） 衰弱する。 意気消沈する。
むすける（形） おませになる。おとなびる。 虫が付く。

そばえる（動） あまえる。「そばえっこ」はあまえんぼうの子供。

古語の「そばゆ」（戯ゆ）が語源。

だがる（動） だっこする。

たがぐ（動） 手に持つ。所持する。

たづぐ（動） 幼児があまえて親に抱きつくこと。じゃれる つかまる。

ちゃんちゃこめ（名） かたぐるま。

ほろげおづる（動） 高いところから落ちる。

えっだぐする（動） けがをする。

かさびた（名） かさぶた。

やげぱず（名） やけど。

ねごも（名） 脇腹・ふくらはぎ等にできる腫れ物。

めんちょ（名） 顔にできる腫れ物。

ばが・めんご（名） できものの類。

つづらご（名） できものの類。

かまえだづ（名） こよみ、カレンダーの類を踏むと肉がそげ落ちるといふ架空の病気。

こちょばす（動） くすぐる。

こちょびたい（形） くすぐったい。

おもしろえ（形） おもしろい。

だあづん（名） ほうび。「駄賃」のこと。

ぼつこり（名） 坊主刈り。坊主頭。

みづぐり（名） 女児の三つ編みの結髪。

しゃれこ（名） おしゃまな子。

よぴかり（名） 夜更かし。

あぶらこ（名） 幼すぎて子供の遊びに加われない幼児。

あどど（幼児語） 月。

あぶ（幼児語） 毛布、タオルケットの類。

たんたん（幼児語） 靴下。足袋が語源か。

ぱえぱえ（幼児語） おっぱい。

ざざ・ざざも（幼児語） 魚。

〔遊び〕

ばえ(名) めんこ。「大^{だい}わん」「中^{ちゅう}わん」「小^{しょう}わん」と「角^{かく}ばえ」、そして小さな「ちんこばえ」がある。「牌^{パイ}」が語源。

える(動) 相手のめんこを地面に叩きつけてひっくり返すこと。「得る」が語源。

てっぱ(名) めんこを叩きつける祭に誤って地面に指を打つこと。非常に痛い。

語源「てっぱづれる」は、たんに(手を滑らす)の意。

ほんこ(名) 相手の「ばえ」を「える」と自分のものにできる決まり。多くの小学校で
は禁止していた。

やぐどんこ(名) 相手の「ばえ」を「え」っていったん自分のものにしても、遊びが
終わったら相手に返さなければならない決まり。

なお、「やぐど」はわざと、本気でない意の副詞。「~こ」は~ごっこ。

あすかけ(あり)(なし) 「ばえ」を「える」際に、足^{あす}を「ばえ」
の側によせていいのが(あり)のルール、(なし)はそれが禁止のル
ール。(あり)は正確に打つことができ、また風圧が足に反射増幅
されるので有利である。

ばったら・ばったり(名) 不意に足を引っかけて相手を転ばす。 草の茎を結んで
人
が転ぶように細工した罫。

かぐれかんこ(名) かくれんぼ。

しえめっこら(名) おにごっこ。

てつなぎしえめ(名) 鬼に捕まったら手をつなく「しえめっこら」。背後から近づい
てつないだ手を切ることもできる。

みずあび(名) 水泳。

ずぶくぐり(名) 潜水。

まっぱ・はらまっぱ(名) 飛び込む際に腹や胸を水面に強打する事。盛大に水しぶき
があがるが非常に痛く赤くはれる。これをすると「よわかす」と嘲られた。

しえみしえめ(名) 蝉とり。「しえめる」(動)は捕まえること。前記「しえめっこら」
参照。

べっきしえめ(名) かえる捕り。(ザリガニ捕りの餌)

どんじょしえめ(名) 泥鰌とり。

どんじょほり(名) 晩秋に水のない用水路の泥をスコップで浚って冬眠中の泥鰌を捕ること。

ざっこつり(名) さかな釣り。「^{ざっこ}雑魚釣り」である。

めめずしえめ(名) みみず捕り。「ざっこつり」の餌。

ゆぎわり(名) 雪の玉をぶつけ合ってその堅さを競う遊び。ビー玉ぐらいの雪の玉を最初は手のひらで、次いで長靴の下で丁寧に転がし次第に大きくする。そして、野球ボール程の大きさになったら互いにぶつけ合って、相手の雪玉を割る冬の遊び。

どふら(名) 雪の落とし穴。「どんぶら」とも。

すめずる(名) スキー、竹下駄(女児)、そり、箱ぞり(幼児)のように雪上を滑って遊ぶ総称。

つれんぼ(名) スキーのストック。本来は杖のこと。

かだゆぎ(名) 早春の早朝、堅くしまった残雪のうえを自由に歩き回ること。

田圃や小川の上でも一直線に通行できるので登校時の楽しみとなる。

なお、越後地方では「しみわたり」と言う由。

「じゃんけんキー」「じゃんけんポン」と言わずに「キー」と言う。

「か～う～」子供が駄菓子屋で店番の「ばんちゃ」がいないときに言う。

あでくず(名) 当てくじ。ガムなどの包み紙の中に「あたり」と書いてあるともう一個あるいは景品がもらえた。

キャンデー(名) 棒付アイスクリームのこと。飴ではない。

こおりすい(名) かき氷のこと。氷水ではない。

ゆぎ(名) 氷のこと。雪ではない。

〔学校で〕

がっこ(名) 学校。

べんきょ(名) 勉強。

むずがすえ（形） むずかしい。

じょうさなえ（形） やさしい。「造作無い」

たえそうば 体育館。「^{たえそうば}体操場」

はすっくら（名） かけっこ。

げっぺ（名） ビリ、最下位。「げっば」とも。

ゆてける（動） （先生に）言いつけてやる。

へらす（動） いいふらす、吹聴する。

ずろえ（形） ずるい、卑怯である。

ずろすけ（名） ずるいやつ、卑怯者。

えもにかい（名） 秋の学校行事「芋煮会」の正式な発音。^{じゃがえも}馬鈴薯・^{さつまえも}薩摩芋のように
薯・芋はすべてエモ。

しゃず（名） 給食のスプーン。

へら（名） 卓球のラケット。

はだぐ（動） 卓球でスマッシュする。

はだぎなす（動） 卓球でスマッシュしてはいけないルール。

だんま（名） ボール類の総称。

だんまつぎ（名） まりつき。

だんまなげ（名） ボール遊びの総称。

わっかぐり（名） 運動会の「輪くぐり」

しえんしえ（名） 先生。

しょうずんご（名） 標準語、共通語のこと。

〔社会〕

むがさり（名） 花嫁、結婚式。当日仲人^{なごど}が花嫁の家の門前で「むがっさりよ～」と呼
ばい行列が出発する。

かが（名） 自分の妻。「嬢」の意。

おやず（名） 夫。 壮年男性の一般的な総称。「親父」の意。

ざらぶ（名） 葬式。葬送の際に僧がたたくシンバルの音にちなんだものか。

かわながれ(名) 入水自殺。 溺死。
くぴかがり(名) 縊死。
おっさま(名) 僧。「お坊様」の意。
ほえさま(名) 祈禱僧、修験僧。「法印様」
くやみ(名) 香典。「悔やみ」
らんば(名) 火葬場。「やぎば」(焼き場)とも。
おぼやぎ・おんぼやぎ(名) 火葬。 火葬場。
ごえが(名) 御詠歌。
おふだぶず(名) 巡礼。
むうずん(名) 無尽。
んまはすり(名) ^{やぶさめ}流鎚馬。
ひらそび(名) 昼食。 昼寝。
じゅんさ(名) 警察官、お巡りさん。「巡查」
おさえる(動) 逮捕する。
だんなしゅ(名) 地主。 金持ち、資産家。「旦那衆」
ざえごじゅ(名) 田舎者。
やましゅ(名) 山地に住んでいる人。
だえぐ(名) 大工。
あずぎだえぐ(名) 下手な大工。 本職ではない素人の大工。
「^あ悪しき大工」の意か。
とがぎや(名) 建具屋。
えさばや(名) 魚屋。古語「いさな」(魚)が語源。
すすや(名) すし屋。
えがげや(名) 鍋釜修理屋。「鑄掛屋」
たがや(名) 桶屋。「箍屋」(方言ではない)
こばや(名) 屋根葺職人。「木端屋」(方言ではない)
つぼぎや(名) 植木職人。
ものや(名) 飼料屋。
んまごろす(名) 屠殺人
ほえど(名) 乞食。古語の「ほかひびと」が語源。

ずほこぎ・うそこぎ（名） うそつき。
えろおなご（名） 愛人。 派手な女性。
よたこ（名） ちんぴら・やくざ者。「与太公」

〔食物〕

おさえ（名） おかず、副食物。
おづけ（名） みそしる。
なっとずる（名） 納豆汁。
ざんぱんずる（名） 魚のあら、大根、ねぎ等を煮たもの。冬の食物。
ぞおさえ（名） 雑炊。
とふから（名） おから。
えどこん・つぎこん（名） しらたき蒟蒻。
たまこん（名） 玉蒟蒻。
えもがら（名） 芋の茎を乾燥したもの。「なっとずる」の具。
ねんぎ（名） ねぎ。
たまな（名） キャベツ。
なづけ（名） 冬に食べる青菜の漬け物。
なっぱ（名） ホーレンソウ・小松菜の類。
なずな（名） 薺。
くぎだず（名） おひたし。
だえごんづけ（名） たくあん。
おじゃおぎ（名） お茶菓子。 お茶うけ。（ が語源）
えもこ（名） 里芋。
なずえも（名） 馬鈴薯。
だす・だすこ（名） なす・きゅうり・しそ葉等を細かく刻んで醤油で味付けしたもの。
ご飯にかけて食べる。
かど（名） 生のニシン。
にしん（名） 身欠ニシン（乾物）

からがえ（名） エイの乾物を甘辛く煮た食物。祝祭時の料理。

ぼうだら（名） 鱈の乾物を甘辛く煮た食物。右記の代用物。

ゆお（名） 生の鮭。古語「いお」（さかな）が語源。

ししょびぎ（名） 塩引鮭。

きりごみ（名） いかの塩から。

ええご（名） エゴ。酢味噌で食べる。

えなご（名） イナゴの佃煮。

すそまぎ（名） 甘辛いみそをしそ葉で包んで油で揚げた食物。

めっこまま（名） よく炊けていないごはん。めっこは「盲人」（差別用語）

やぎみす（名） おむすび。「焼き飯」が語源だが焼きおむすびではない。

すす（名） すし。

ひっぱりうどん（名） 納豆をたれに釜揚げで食べる。

おと・おおと（名） さくらんぼ。「桜桃」

ぶんど（名） ぶどう。

すえがん（名） すいか。

ふかす（名） 赤飯。

もず（名） もち。

ぬだ（名） 餅、だんごの具。（青豆に砂糖を入れすりこぎですった食物）

とっきび（名） とうもろこし。「唐黍」

たなごめ（名） 炒米に砂糖醤油で味を付けたこどもの食べ物。ひょうたん等に保存する。

なだまぎ（名） ちまき。

ささまぎ（名） 餅米を笹の葉に包んで蒸した食物。きなこ等で食べる。

どん（名） ばくだん。（ポップコーンの類）

どんどんやぎ（名） おこのみやき。

かつぼす（名） かつおぶし。

きりだす（名） こまぎれ肉。

うずにぐ（名） 内臓、モツ。

〔身近な物ごと〕

おがんのさま（名） 観音堂。

ずぞさま（名） 地藏堂。

おやぐっさま（名） 薬師堂。

ふよ（名） 冬。

ふぎ（名） 吹雪。

さらど（名） 新雪。

さらどこぎ（動） 新雪を冒しての困難な通行。

あまゆぎ（名） みぞれ。

あまける（名） 雪が解けてぐしゃぐしゃになること。

ぼんだら（名） つらら。

すが（名） 氷。

すみる（動） 凍結する。

ゆぎ（名） かき氷。 飲用に用いる冷蔵庫の氷。「雪」ではない（前出）

むんずり（名） 綿入れの上着。

てこげる（動） 手がかじかむ。

つつたえ（形） 冷たい。

あたかえ（形） 暖かい。

ひばず（名） 火鉢。

あぐ（名） 灰。

もぐだ（名） 生ゴミの類。

あんかん（名） あんか。

さなぶり（名） 大雨。

おがだっつあま（名） 雷神。 雷。

らえさま（名） 同右。

てしょ（名） 小皿。「手塩皿」が語源。

きびちょ（名） きゅうす。

ずてんしゃ（名） 自転車。

ずどしゃ(名) 自動車。
あぶら(名) ガソリン。 灯油。 「ずどしゃさあぶらへれる」(ガソリン給油)
ころどや(名) 一軒家。
とのぐず(名) 玄関。
からがみ(名) ふすま。
ながす(名) 台所。
はえじょ(名) 蠅帳。(どこの家にもありましたね)
はんだえ(名) 食卓。「飯台」
おづぼ(名) 庭園。
つぼぎ(名) 植木。
たがじょう(名) 地下足袋。
さぶろ(名) スコップ。「シャベル」が語源。
しえんつ(名) トイレ。
だら(名) 下肥。
だらおげ(名) 下肥を汲んだり貯蔵する桶。
だらぴしゃぐ(名) 下肥を汲む柄杓。
だらくみ(名) 下肥を汲み上げる作業。 バキュームカー。
だらかます(名) 下肥をかき混ぜ堆肥にかける作業。 汚い物をいじくるたとえ。
こえづが(名) 堆肥。
みだくなす(名) 不器量な人。 卑劣な行為をした人。 ラ・フランス。
おともぎ(名) サクランボの収穫。
ひまだれ(名) 徒労に従事して得るものがないこと。
ししゃます(名) 苦心・苦勞。 悪戦苦闘。
ししゃね・しやあね(連語) 知らない。
えげすかね(形) 気に入くない。
がらがら(副) あわてて。 急いで。
「がらがらえっただなや」(急いで行きましたよ)
しええ(形) よい。 よろしい。
われ(形) わるい。 いけない。
おもしゃい(形) おもしろい、愉快である。

おもしろくない(形) おもしろくない、不愉快である。

すんけたがり(名) 神経質。

ふけさめ(名) 感情の起伏がはげしいこと。

おべっだ(連語) 知っている。

しゃあね(連語) しらない。

かむ(動) かまう。

かまね(連語) かまわない。 放置する、ほおっておく。

「おめだだらなんにもしゃあねな。かまねは」

びどさがり(名) だらしない人。

まつぼえ((形)) まぶしい。

あつつ(代) あちら。

こつつ(代) こちら。

あつつこつつ(副) いい加減に。 中途半端に。

ぎつつえ(形) きつい。

ゆるこえ(形) ゆるい。

はえず(代) あれ。

そえず・ほえず(代) それ。

こえず・かえず(代) これ。

むずる(動) 右左折する。 折り返す。 戻ってくる。

すえふる(名) 風呂。「据え風呂」

かえる(動) 水を入れ替える。 水を抜く。

うるがす(動) 水でふやかす。

すだらがす(動) ざる等で水を切る。

おもしろい(形) おもしろい。 愉快である。

おもしろくない(形) おもしろくない。 不愉快である。

えげすかね(形) きにくわない。 好きになれない。

がおる(動) 衰弱する。 意気消沈する。古語の「我折る」が語源。

こわえ(形) つかれる。「恐ろしい・怖い」ではない。

おっかあね・おかなえ(形) 恐ろしい。 怖い。

やばつえ(形) 水しぶきがかかって不快である。温度が「冷たい」ではない。

おら（名） わたし。

おんだ（名） 私たち。「だ」は複数をあらわす接尾語。

おめだ（名） あなたたち。

おべっだ（連語） 知っている。

しゃあね（連語） 知らない。

わがらね（連語） してはいけない（禁止） どうしようもない。 不可能だ。

「あっちゃえってわがらね」(あっちにいつてはいけません)

「えそがすくてわがらね」(いそがしくてどうしようもない)

「おれさするたてわがらね」(私にやれといたって無理です)

はあ（感） はい。

ける（動） あげる。 してあげる。

けね（動） あげない。 してあげない。

んだ（連語） そうだ。

んだて（接） しかし。 だって、だけど。

んね（連語） ちがう。

ほんね（連語） そうではない。 ちがう。

ほんだ（連語） そうだ。

ぼっき（名） 棒きれ。「棒木」

じえね（名） お金。

なす（動） 返済する。 弁償する。 出産する。

すれっば（名） しっば。

えぬ（名） 犬。

ねご（名） 猫。

べご（名） 牛。

かなちよろ（名） 小型のトカゲ。

ととこ（名） 鶏。

もの（名） 餌。

おごさま（名） 蚕。「お子様」

〔難読地名・固有名詞〕

たっしょ 田代（寒河江市）

じゅうにごおず 十二小路（寒河江市西根）

すんどお 新道。（寒河江市・国井医院付近）

じゃな 表記未詳。「築場」か。（寒河江市内二の堰・陵東中学校付近の河川）

たがしやま 高瀬山（寒河江市）

いわんばな 高瀬山下の最上川。「岩鼻」の意。（寒河江市）

かんしえん（名） 川名。「幹川」か。（寒河江市）

さんどがわ（名） 川名。（寒河江市）

したがら（名） 下河原（寒河江市）

くもがら（名） 雲河原（寒河江市）

はがしえ（屋号） 八カセ渡辺商店（寒河江市）

おぐらこ（屋号） 寒河江小学校前の商店。

おがめじゃや（屋号） 寒河江市西根の商店。

しえんたろう（屋号） 寒河江市中高屋にあった商店。

まぎとご（屋号） 理髪店（寒河江市）

きぬとご（屋号） 理髪店（寒河江市）

かえしゅう（名） 海味（西川町）

やづ 谷地（河北町）

まっつあす 松橋（河北町）

だえ 田井（河北町）

ようじょ 両所（河北町）

やきさ 柳沢（中山町）

こしゅう 小塩（中山町）

しじょり 肘折（大蔵村）

〔語彙と用法〕

「こんにつあっす」　こんにちは。

「さえならあ、ごっつおさまでした」　さようなら、ごちそうさまでした。

「たくさんだっす。やだころえだだぎました」　もうけっこうです。充分満腹しました。

「あのよお～」　あのね。ところで。

「こおばがやろ」　ばかだなあ。

「おもしろくなえべけん」と　こんなこと言ったら不愉快だろうが。

「へずげだなあ～ぼだしえ」　そんなにひどかったら、追い出してやりなさい。

「ゆてわれげんと、びどさがりだよ～、えげすかねえあねさまだず」

こんなことを言っではいけないが、整理整頓のできないだらしない、
私には好きになれないギャルなんだよ。

「あんだがした～。しゃねがった」　ああほんとはそうだったの。ちっとも知らなかったよ。

「あのよ～」 「んだが」 「んね」　あのね、そうですか、ちがいます。

「ずぶくぐてみる、ちゃっこえざっこめっか～」 「めね」

水に潜ってごらん、小魚がみえるかな？　見えないよ。

「かど、ひたっつ。ケロ。んね。う～かどだずう～」

生のニシンを二匹ください。ええ～っ、ちがいますよ。生のニシンですよ。

「ぎつつぐねっくすさたづえでろ。ほろげおっでえっだぐすっからな」

しっかり木の枝の太いところに捕まっていなさい。さもなくば落ちて怪我をするよ。

「こおばがやる。へずげだな、まなくえしゃさえって、めたぶかくらがえして、ねっずぐうるがしてあろてもらえ」

ばかだなあ。その程度のことは眼科医でまぶたのうらを、よく水に浸して洗浄してもらえばいいよ。

「このそおじゅうきどえすつろえ～」

この焼酎はきつい味がするうえに強いね。

「えずがしょっでんよお～。しあねおら～。わしえだあ～」

だいぶ以前の事です。知らないよ私。忘れました。

「すっかあ？」「すね」 しますか？ しません。

「めっかあ？」「めね」 見えますか？ みえません。

「ゆたが？」「やね」 言いましたか？ 言いません。

「なしてえやんだんだ」 どうしていやなの。

「ほっだなあ、へっずげだなあ」 そんな、ささいなもの。

「しあねおら～」 知らないよわたし。

「んまくなえ」 不都合だ。

「あばらあばらてんな」 ひいひい弱音を言うな。

「さあすけなえ」 気にしないでください。

「なになもんだが」 いったいどういうつもりなんだろう。

「ぶじょうした」 失礼しました。

「くえすねも」 だいじょうぶ。意に介さない。

「ふよ。ふぎふぐどぎよお～。たがゆさえってかじえひできたあ」

「んだべ。しえゆだもなあ。たがしやまさんぐどえがったなあ」

「んだっだ。かなげのあたまりゆだも」

冬の吹雪のときに蔵王温泉に行って風邪をひいてきましたよ。

そうでしょう。「冷え湯」ですからね。そういうときは高瀬山の寒河江温泉に行けばよかったですよ。

なるほど。鉄分の多い「温まり湯」だもんね。

「とうもろこしたべてね」

「ええ～っ」

とうもろこしたべてね。

ええ～っ（なまいきなやつめ。「とっきびケ」と言えばいいんだよ）

* 「ええ～っ」(感)は相手が「小利口ぶる。知ったかぶりする。こざかしいのを揶揄するはやしことばである。「応諾」「驚嘆」の意味は右記の場合ない。

「んだげんとさあ」

「んだど思うわ」

* 寒河江の人が無理して標準語しょうずんごをはなすところなる。